

令和3年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 7【号】



## 楽観バイアスの根深さ

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

ワクチン接種の接種券はまだ手元に届いていないが、幼稚園の教職員などは職域接種等の機会に恵まれる。私もこの機会を大切に、接種を希望した。ただ、健康診断時の採血のときでさえも、「少しチクッとしますよ」という看護師の言葉に無言でようやくうなずき、目をつぶっていなければその場をやり過ごせない私にとって、いくらワクチン接種とはいえ2回も注射をするなんて想像しただけでも・・・いや、想像すらしたくない由々しき事態である。

そうとはいえ、7月に第1回目の接種を行った。接種会場では事前に記入した問診票を持参し、要所要所で本人確認が行われたかと思うとイスに座ることをうながされ、目をつむると同時に接種が済み、いつ手渡されたのか注意事項の書かれたパンフレットを手に、接種後15分間の待機を命じられていた。心配していたその後の副反応も接種部位の腕の痛みぐらいで、しかもわずかに痛気持ちいいといった心地よささえ感じていた。

第2回目は8月だった。1回目より2回目のほうが副反応は強く現れると前回手渡されたパンフレットには書かれていたが、私はそれほど心配していなかった。副反応の症状が強くなる人もいるのだろうけど、私自身に限ってはそのようなことはない心のどこかで思っていた。このような心の動きには「楽観バイアス」という名称が与えられている。「望ましくない事象があっても自分は巻き込まれない、大丈夫、無関係」と楽観視する心理である。

ところで、私は北海道に赴任して10年になる。前任地は東北の福島県だった。10年前といえば、東日本大震災があった。私も当時、福島で被災した。電気・ガス・水道等が機能なくなり、物流がストップした。そのような出来事に遭遇し災害は他人事ではなく自分の身にも起こり得るということを痛切に経験しているにもかかわらず、それでもワクチンの副反応は自分には無関係だと考えてしまう。楽観バイアスの根は深い。

さて、ワクチン接種第2回目の副反応である。甘く考えていた自分を悔やんだ。腕が痛い。熱は38度を超えて下がらない。頭が痛い。言いやうのない全身の疲労感・倦怠感。パンフレットに記載されている通りの副反応で、2日目はとてもじゃないが起きていられず倒れこんでしまい、終日うなされながら寝て過ごすことを余儀なくされた。

うなされながら思った。コロナに関して楽観は禁物であると。コロナ禍にあっては、園で予定している行事等もその内容や運営については楽観バイアスを排し慎重に検討してし過ぎることはない。状況によっては思い切った決断が必要なきときもある。そして、その姿勢を園が維持できるのは、まさに保護者の方のご理解とご協力の賜物なのだ。

